

● 4 月度土曜例会

4 月度土曜例会(10/04/17)

IIN 本年度の総会に引き続き第 2 部特別講演、本日のスピーカーは大阪大学国際教育交流センター 副センター長 有川友子教授、教育人類学・異文化間教育学が専門です。IIN では阪大の留学生の多くの方たちとはゲストスピーカーとして、また OUTING、ホストファミリープログラム等日頃のお付き合いが大変深い関係ですが、有川先生はその留学生たちをサポート、ケアする大元。いわば先生の下から留学生たちとの交流がスタートする訳です。様々なスピーチ内容から私たち IIN の今後の活動に参考になる内容が盛り沢山のはず、ヒントを捕らえ活かしましょう。スピーチ内容は



- 1) 日本における留学生をめぐる最近の動き
- 2) 阪大に学ぶ留学生の現状
- 3) 留学生センターから国際教育交流センターへ
- 4) センターと地域との関係
- 5) 留学生との交流体験、考えること、疑問に思うこと、分からないこと(IIN 会員へ先生からの問い)
- 6) これからの身近な国際交流

1) 留学生 30 万人計画 http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/20/07/08080109.htm

国際化拠点整備事業(グローバル 30 拠点事業)<http://www.jsps.go.jp/j-kokusaika/sinsa.html>

独立行政法人日本学術振興会 <http://www.jsps.go.jp/j-outline/gaiyo.html>

現在留学生総数 123,800 人但し留学ビザ持参者、就学ビザ持参者カウントせず。

(上記詳細を調べたい方は各自でどうぞ)日本学術振興会も今回事業仕分けの対象です。

2) 昨年 5 月 1 日で阪大留学生 1,455 人

アジア 1,121 人、ヨーロッパ 168 人、ラテンアメリカ 48 人、中東 38 人、北米 34 人、アフリカ 31 人、オセアニア 16 人、その他で計 91 カ国から。

国別ベスト 5、中国 443 人、韓国 215 人、タイ 92 人、ベトナム 79 人、インドネシア 64 人

3) 今年 4 月 1 日国際教育交流センターへ。

2010 年 4 月、従来の大阪大学留学生センターを発展改組し設立されました。当センターは、大阪大学の国際教育交流の中心として、本学留学生をさまざまな形でサポートし、広範な日本語プログラムを提供するとともに、短期留学の受け入れ促進や一般学生の協定大学への短期留学促進などの業務を行います。全学によって運営される交換留学生受け入れのための国際教養・専門複合型プログラム(OUSSEP)をはじめ、各種受入・派遣プログラムのコーディネートにあたっています。またサポートオフィス(Support Office for International Students and Scholars)を設置し、日本の文化や生活習慣などが異なる海外から新たに受け入れる外国人留学生及び外国人研究者を対象にして、来日前から来日後直までの期間に係る「宿泊施設手配・斡旋支援」、「在留資格認定証明書交付申請」並びに「各種情報提供」の3つの事項に及ぶ全学的な業務内容に関して、一元的にこのサポートオフィスが対応しています。

OUSSEP(Osaka University Short-Term Student Exchange Program)



4)地域との関係

。ホストファミリープログラム(OHP) 新留学生向け

留学生および地域社会がお互いの文化・習慣を正しく認識し、相互理解を深めることを目的として「大阪大学留学生ホストファミリープログラム」(略称/OHP)を実施しています。

このプログラムは対象を大阪大学に学ぶ外国人留学生とし、本学近郊の地域の市民ボランティアの参加のもとに、家族ぐるみで率直かつ気軽な交流活動をすすめること、および大学・家族・留学生が適宜相互に助言し、相談に対処していくことを主旨としています。

現在 239 件の組み合わせ、平成 6 年以来述べ 1872 件。茨木市国際親善都市

協会会員では 10 件、述べ 68 件。

Brother & Sister Program

B.S.P.は国際教育交流センターと協力して留学生と日本人学生との交流を支援しようという団体です。パーティーやおしゃべり、いろいろな手伝いまで、また、学生に限らず、職員や地域社会の人々も交えての交流活動など、日常生活に根づいた活動に取り組んでいます。

小・中・高等学校との交流

国際教育交流センターでは以前から地域の学校教育への協力をも重要なものと認識しており、現在まで国際理解教育への相談・コメント・留学生講師の派遣調整を行ってきました。今後は、留学生と北摂地域の小中学生との交流が、一回限りの交流ではなく、継続的な交流プログラムとなるよう国際教育交流センターが支援していくことが益々必要となっています。

昨年は 28 項へ 140 名が派遣されました。

。ホームステイ等、地域との交流

大阪大学国際教育交流センターでは、地域やボランティア団体等と連携・協力して、様々な交流プログラムを行っています。

協力団体34組織、IIN もそのひとつ、昨年は奈良への OUTING が行われました。

5) 交流体験等

OHPを体験した会員、OUTINGの体験談、今後ホストチュードントを受け入れる会員からの質問等、多くの会員から貴重な感想、意見が発表されました。最近の日本人学生が世界に飛び出したがらないのでは？というテーマまで取り上げられましたが、総数としてはそうかもしれないが先生の周りには積極性のある学生たちが沢山いる、とのことでした。

6) これからの身近な国際交流(先生から皆さんへ)

相手が自分と同じように考える、または行動することが当然とは思わないで下さい。

違うことを楽しみ、違うことから学びましょう。

互いに学びあい、世界を広げましょう。

互いに尊重しあいましょう。

留学生のみに限らず、異なるバックグラウンドを持つ身近な人との交流を楽しみましょう。

